作成日　2004年12月17日
改定日　2014年2月21日

製 品 安 全 デ ー タ シ ー ト（ＭＳＤＳ）

1. 化学物質等及び会社情報

製品名　JIS　B2401－1　NBR－90(旧名　1種B)材 ゴム部品

会社名　株式会社森清化工
住所　東京都墨田区八広1－30－9
電話番号　03－3618－5555
FAX番号　03－3618－5566
緊急時連絡先　同上

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性　加熱溶融したものに接触すると、熱傷を起こすことがある。

健康に対する有害性

急性毒性(経口)	区分5
急性毒性(経皮)	分類できない
急性毒性(吸入:ガス)	分類対象外
急性毒性(吸入:蒸気)	分類できない
急性毒性(吸入:粉塵、ミスト)	分類できない
皮膚腐食性・刺激性	分類できない
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分2B
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	区分1
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	区分2
生殖毒性	区分1B
特定標的臓器/全身毒性(単回ばく露)	区分1(神経系) 区分2(全身吸入)
特定標的臓器/全身毒性(反復ばく露)	区分1(肺、神経系、肝臓、甲状腺、内分泌系) 区分2(腎臓)
吸引性呼吸器有害性	分類できない

環境に対する有害性

水生環境有害性(急性)	区分1
水生環境有害性(慢性)	区分1

GHSラベル要素
シンボル

注意喚起語　危険

危険有害性情報
H301 飲み込むと有害のおそれ
H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
H320 眼刺激
H351 発がんのおそれの疑い
H361 生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い
H370 臓器(神経系)の障害
H371 全身の障害のおそれ
H372 長期にわたる、または、反復暴露による臓器(肺、神経系、肝臓、

甲状腺、内分泌系)の障害
H373 長期にわたる、または、反復暴露による臓器(腎臓)の障害のおそれ
H400 水生生物に非常に強い毒性
H410 長期的影響による水生生物に非常に強い毒性

注意書き
安全対策

P201 使用前に取扱説明書を入手すること。
P202 すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
P260 粉じん/ヒューム/ガス/ミスト/蒸気/スプレーなどを吸入しないこと。
P264 取扱い後は手をよく洗うこと。
P270 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
P273 環境への放出を避けること。
P281 指定された個人用保護具を使用すること。

応急処置

P301+P310 飲み込んだ場合、気分が悪い時は、医師に連絡すること。
P302+P352 皮膚についた場合、多量の水と石けんで洗うこと。
P304+P340 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
P305+P351+P338 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
P308+P313 暴露または暴露の懸念がある場合は、医師の診断を受けること。
P314 気分が悪い時は、医師の手当、診断を受けること。
P330 口をすすぐこと。
P333+P313 皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断を受けること。
P337+P313 眼の刺激が続く場合は医師の診断、手当を受けること。
P391 漏出物を回収すること。

保管

P405 施錠して保管すること。

廃棄

P501 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成および成分情報

単一化学物質・混合物の区別　混合物

成分及び含有量

成分	濃度又は濃度範囲	官報公示整理番号		CAS番号
		化審法	安衛法	
アクリロニトリル・ブタジエン共重合物	非公開	(6)-454	化審法と同じ	9003-18-3
カーボンブラック	45-55%	該当なし	該当なし	1333-86-4
酸化亜鉛	1-5%	(1)-561	化審法と同じ	1314-13-2
テトラエチルチウラムジスルフィド(略号TETD)	0.6%	(2)-1820	化審法と同じ	97-77-8
N-シクロヘキシル-2-ベンゾチアゾールスルフェンアミド(略号:CBS)	0.8%	(5)-256	化審法と同じ	95-33-0
その他添加剤	1-5%	既存	既存	非公開

尚、これらの化学物質の人に対する有害な影響、環境への影響、物理的及び化学的危険性
並びに特定の危険有害性については、それぞれの化学物質のMSDSをご覧下さい。

労働安全衛生法・PRTR法

成分	労働安全衛生法 名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)	PRTR法
アクリロニトリル・ブタジエン共重合物	表示・通知対象物質に該当しない	指定化学物質に該当しない
カーボンブラック	通知対象物　第130号 (カーボンブラック)	指定化学物質に該当しない
酸化亜鉛	通知対象物　第188号 (酸化亜鉛)	指定化学物質に該当しない
テトラエチルチウラムジスルフィド(略号TETD)	通知対象物　第354号 (テトラエチルチウラムジスルフィド)	対象物質　第1種　259号
N-シクロヘキシル-2-ベンゾチアゾールスルフェンアミド(略号:CBS)	表示・通知対象物質に該当しない	対象物質　第1種　115号

4. 応急措置

吸入した場合　被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪いときは、医師の手当、診断を受けること。

皮膚に接触した場合　直ちに大量の水と石鹸で洗うこと。
汚染された衣類を再利用する前に洗濯すること。
気分が悪いときは、医師に連絡すること。
皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当をうけること。

目に入った場合　直ちに大量の流水にて数分以上注意深く洗う。
コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は、外してから洗う。
目の刺激が続く場合は、医師の診断、手当をうけること。

飲み込んだ場合　水で口の中をよくすすぐ。
気分が悪いときは、医師の手当、診断を受けること。

最も重要な徴候及び症状　特になし

応急処置をする者の保護　保護具(保護メガネ、ゴム手袋、マスクなど)を着用する。

医師に対する特別注意事項　特になし

5. 火災時の措置

消火剤　ABC粉末消火器、粉末炭酸ガス消火器、注水、防火砂等を用いる。

使ってはならない消火剤　情報なし

火災時の特有の危険有害性
火災による不完全燃焼で、黒煙、一酸化炭素、窒素酸化物、硫黄酸化物などの有害なガスが生じる。

特有の消火方法　情報なし

消化を行なう者の保護　消火作業の際には有害なガスを吸い込まないように呼吸用保護具を着用し、風上から消火作業を行う。

6. 漏洩時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急措置　特になし

環境に対する注意事項　特になし

回収・中和　物質を吸込み又は掃き取って廃棄用密閉容器に入れる。

二次災害の防止策　全ての発火源を速やかに取り除く(近傍での発煙、火花や火炎の禁止)

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策　「8.ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する

局所排気・全体換気　「8.ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行う。

安全取り扱い注意事項　全ての安全注意を読み、理解するまで取り扱わないこと。
取り扱い後はよく手を洗いうがいをする。
この製品を使用する前に、飲食又は喫煙をしないこと。
皮膚と接触しないこと。
環境への放出を避けること。
目、皮膚又は衣類に付けないこと。
火花、裸火との接触禁止。

接触回避　「10.安全性及び反応性」を参照。

保管

混触危険物質　「10.安定性および反応性」を参照。

適切な保管条件　製品の劣化を防ぐために、以下の点を避けること。
使用時までは未開封の状態で保管してください。
開封後に長期保管する場合は、出来るだけ元の包装状態と同様に密封して保管してください。
直射日光や蛍光灯などの光源に直接あたらない場所で保管して下さい。
風通しの少なく、湿度の低い場所で保管して下さい。
室温以下で保管して下さい。特に高熱の熱源付近では絶対に保管しないで下さい。
オゾン、放射線、紫外線等が発生する場所では保管しないで下さい。
フック等に引っ掛けての保管や、紐などで束ねて変形させての保管はしないで下さい。
ゴミ、ホコリ、油脂等の異物がつかない環境で保管して下さい。

容器包装材料　一般的な包装材料

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度、許容濃度

成分	管理濃度	日本産業衛生学会　許容濃度	ACGIH
カーボンブラック	設定されていない	【粉塵許容濃度】(第2種粉塵) 吸入性粉塵1mg/m^3,総粉塵4mg/m^3(Ⅳ)	TWA : 3.5mg/m^3
酸化亜鉛	設定されていない	【粉塵許容濃度】(第2種粉塵) 吸入性粉塵1mg/m^3,総粉塵4mg/m^3(Ⅳ)	TWA : 2mg/m^3(R), STEL : 10mg/m^3(R)
テトラエチルチウラムジスルフィド(略号TETD)	設定されていない	【粉塵許容濃度】(第3種粉塵) 吸入性粉塵2mg/m^3,総粉塵8mg/m^3(2009年度版)	TLV-TWA : 2mg/m^3 (2009年度版)
N-シクロヘキシル-2-ベンゾチアゾールスルフェンアミド(略号:CBS)	設定されていない	【粉塵許容濃度】(第3種粉塵) 吸入性粉塵2mg/m^3,総粉塵8mg/m^3(2009年度版)	他に分類されない不溶性粒子(PNOC)として、 吸入性粉じん: 3mg/m^3 総粉じん10mg/m^3 (2009年度版)

設備対策　この物質を貯蔵ないし取り扱う作業場には、洗眼器と安全シャワーを設置すること。
高熱取り扱いで、工程で粉じん、ヒューム、ミスト、ガスが発生するときは、

空気汚染物質を管理濃度・許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。

保護具

呼吸器の保護具	必要に応じて個人用呼吸器保護具、防塵マスク、簡易防塵マスクを使用すること。
手の保護具	必要に応じて適切な保護手袋を着用すること。
目の保護具	必要に応じて保護メガネ(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	必要に応じて保護服、保護クリームを使用すること。
衛生対策	製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 作業後はうがいをし、石鹸水でよく手を洗う。

9. 物理的及び化学的性質

外観(物理的状態、形状、色)	ゴム状固体、黒色
臭い	微臭
pH	データなし
融点/凝固点	該当せず
沸点、初留点と沸騰範囲	該当せず
引火点	データなし
自然発火温度(発火点)	データなし
燃焼性	データなし
燃焼または爆発範囲(下限)	該当なし
燃焼または爆発範囲(上限)	該当なし
蒸気圧	該当せず
蒸気密度	該当せず
蒸発速度	該当せず
比重	約1.31(水=1.00)
溶解性(水)	不溶
オクタノール/水分配係数	該当せず
分解温度	データなし
粘度	該当せず

10. 安定性及び反応性

安定性・反応性	通常の温度、気圧下では安定である。
危険有害反応可能性	通常の条件では危険有害な反応は起こらない。
避けるべき条件	高温、加熱、熱源、裸火、直射日光、蛍光灯、オゾン、放射線
混触危険物質	情報なし
危険有害な分解生成物	加熱や燃焼により分解し、一酸化炭素、窒素酸化物、硫黄酸化物などの有害なガスが生じる。

11. 有害性情報

混合物全体としての健康への影響については試験しておりませんが、各成分についての情報を下に記します。

急性毒性

成分	ラット経入 LC_{50}
酸化亜鉛	>5.7mg/L

成分	ラット経口 LD_{50}	ラット経口 LD_{50}	ウサギ経皮 LD_{50}
テトラエチルチウラムジスルフィド(略号TETD)	8,600mg/kg	1,300，2,500，3,100mg/kg	>2,000mg/kg

成分	ラット経口 LD_{50}	マウス経口 LD_{50}	ウサギ経皮 LD_{50}
N-シクロヘキシル-2-ベンゾチアゾールスルフェンアミド(略号:CBS)	5,300hg/kg	>8,000mg/kg	>7,940mg/kg

皮膚腐食性及び皮膚刺激性

成分	皮膚腐食性及び皮膚刺激性
テトラエチルチウラムジスルフィド(略号TETD)	ウサギの皮膚に対して軽度の刺激性を示したが、6時間後に消失した
N-シクロヘキシル-2-ベンゾチアゾールスルフェンアミド(略号:CBS)	ウサギを用いた皮膚刺激性試験の結果、刺激性を認めなかった。 119人にパッチテストを行なったところ、皮膚刺激性を示した。

目に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

成分	眼刺激性
テトラエチルチウラムジスルフィド(略号TETD)	ウサギの眼に対して軽度の刺激性を示した。
N-シクロヘキシル-2-ベンゾチアゾールスルフェンアミド(略号:CBS)	ウサギの眼に対して刺激性を示した。 ウサギを用いた眼刺激性試験の結果、軽度の刺激性を示した。

呼吸器感作性又は皮膚感作性

成分	呼吸器感作性又は皮膚感作性
テトラエチルチウラムジスルフィド(略号TETD)	皮膚に対してアレルギー作用を示すことがある
N-シクロヘキシル-2-ベンゾチアゾールスルフェンアミド(略号:CBS)	日本接触皮膚炎学会は皮膚感作性を有するとしている。 本製品は、ゴム製品によるアレルギー性接触皮膚炎の原因物質の一つに挙げられる。

生殖細胞変異原性(変異原性)

成分	変異原性
テトラエチルチウラムジスルフィド(略号TETD)	サルモネラ菌を用いた変異原性試験などにより、本製品の変異原性を示唆するデータが報告されている。 in vivo変異原性試験であるマウス骨髄細胞を用いた小核試験は陰性。
N-シクロヘキシル-2-ベンゾチアゾールスルフェンアミド(略号:CBS)	in vitroでは、細菌を用いた復帰突然変異試験およびチャイニーズハムスター培養細胞を用いた染色体異常試験において陰性と報告されている。

発がん性

成分	発がん性

カーボンブラック	IARC分類2Bであり、日本産業衛生学会第2群Bであることに基づき区分2とした。なお、ラットを用いた24ヶ月間の吸入試験において、原発性肺腫瘍の発生率が用量に依存して優位に増加し、主要の種類としては良性の腺腫、悪性の腺癌、扁平上皮癌と腺扁平上皮癌などが見られ(EHC No.171(1996))、また、ラットを用いた43～86習慣の吸入試験においては、43週間及び86週間投与群の腫瘍発生率がそれぞれ18%、8%であり、対照群においては腫瘍の発生は認められなかったと報告されている(IARC vol.65 (1996))
テトラエチルチウラムジスルフィド(略号TETD)	IARCでは、本製品の発がん性を「ヒトに対する発がん性については分類できない」と評価し、グループ3に分類している。 ACGIHでは、本製品の発がん性を「ヒトに対して発がん性物質として評価できない」としてA4に分類している。 OSHA、NTP、EU、EPA及び日本産業衛生学会の発がん性物質リストには記載されていない。
N-シクロヘキシル-2-ベンゾチアゾールスルフェンアミド(略号:CBS)	IARC、OSHA、NTP、EU、EPA、ACGIH及び日本産業衛生学会の発がん性物質リストには記載されていない。 雌雄マウスへ7～28日齢時に215mg/kg/dayを強制経口投与し、18ヶ月齢まで99mg/kg/day相当量を混餌投与した実験では腫瘍発生率の増加は認められていない

生殖毒性

成分	生殖毒性
テトラエチルチウラムジスルフィド(略号TETD)	妊娠初期時での暴露により出生児の奇形、流産が認められた。 また、職業暴露による女性生殖器の機能障害が報告されている。
N-シクロヘキシル-2-ベンゾチアゾールスルフェンアミド(略号:CBS)	雌ラットの妊娠6～15日に強制経口投与した結果、50mg/kg以上では用量相関性のある水頭症胎児の増加、450 mg/kgでは胎児の重量及び 頭臀長の減少、皮下出血、着床後の胎児死亡率の増加がみられているとの報告がある。

特定標的臓器毒性(単回暴露)

成分	特定標的臓器毒性(単回暴露)
酸化亜鉛	微粉じんの吸入により金属ヒューム熱を起こすことが知られているので、区分1とした。気道刺激性は認められていない。
テトラエチルチウラムジスルフィド(略号TETD)	大量経口摂取による小児の瞳孔散大や抑鬱、成人では頭痛、運動失調が認められた。
N-シクロヘキシル-2-ベンゾチアゾールスルフェンアミド(略号:CBS)	データなし

特定標的臓器毒性(反復暴露)

成分	特定標的臓器毒性(反復暴露)
カーボンブラック	カーボンブラック生産に携わる作業者を対象とした疫学調査は数多く実施されており、特に長期間(10年以上)暴露されたヒトにおいて咳、痰、慢性気管支炎、肺機能障害、塵肺、肺気腫、肺血流障害、閉塞性呼吸障害、気管支過敏症、気道抵抗と呼気流の低下など肺に特徴的な多くの症状が現れ(IARC vol.61(1996))、さらに胸部X線写真で微細なびまん性変化を示し、組織学的検査ではカーボンブラック微粒子の沈着と機種に関連する細網線維形成が明らかとなったこと(IARC vol.65(1996))が報告されている。以上のように、カーボンブラックの有害影響として職業ばく露による肺の変化または障害が多く、かつ特徴的であることから、区分1(肺)とした。
酸化亜鉛	モルモット、ラットへの反復吸入暴露で、肺への影響が見られているので、区分1とした。

成分	特定標的臓器毒性(反復暴露)

テトラエチルチウラムジスルフィド(略号TETD)	薬剤として摂取した場合、副作用として多発性神経炎が認められた。 長期経口摂取により気分障害、肝障害、血中ホルモン濃度の変動が認められた。 ラットを用いた経口投与試験において甲状腺の肥大が認められた。
N-シクロヘキシル-2-ベンゾチアゾールスルフェンアミド(略号:CBS)	ラットへの25～800 mg/kgの用量での 28 日間反復経口投与の結果、主に腎臓に対する毒性影響が認められた。

吸引性呼吸器有害性　データなし

その他

成分	その他
テトラエチルチウラムジスルフィド(略号TETD)	本製品にはアルコール忌避作用があり、本製品が体内に取り込まれた後アルコールを摂取すると、動悸、皮膚の紅潮、吐き気、嘔吐などの症状が現われる。

12. 環境影響情報

酸化亜鉛として

水性環境急性有害性　藻類(セレナストラム)の72時間EC_{50}=0.17mg/L(EHC221、2001)(酸化亜鉛濃度換算値:0.21mg/Lから、区分1とした。水生生物に非常に強い毒性(区分1)

水性環境慢性有害性　急性毒性が区分1、生物蓄積性が低いものの(BCF=217(既存化学物質安全性点検データ))、金属化合物であり水中での挙動が不明であるため、区分1とした。長期的影響により水生生物に非常に強い毒性(区分1)

生態毒性

成分	魚類	甲殻類	藻類
テトラエチルチウラムジスルフィド(略号TETD)	グッピー LC50(96h) 0.187mg/L	オオミジンコ EC_{50}(48h) 0.12mg/L	データなし
N-シクロヘキシル-2-ベンゾチアゾールスルフェンアミド(略号:CBS)	ヒメダカ LC50(96h) 2.1mg/L	オオミジンコ EC_{50}(48h) 0.79mg/L	セレナストラム ErC50(72h) 0.15mg/L

残留性・分解性

成分	残留性・分解性
テトラエチルチウラムジスルフィド(略号TETD)	データなし
N-シクロヘキシル-2-ベンゾチアゾールスルフェンアミド(略号:CBS)	難分解性(BODによる分解度12%)

生体蓄積性　蓄積性がない又は低い

土壌中の移動性　未評価

規制は、地域により異なることがあるので、事前に適用法令の調査を行うか、又は役所に確認する。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物　廃棄物の処理及び清掃に関する法律、同施行令第6条に準拠する。
大量の場合は、埋め立てるか、あるいはアフターバーナーおよびスクラバー(アルカリ洗浄液)等の排気設備を備えた焼却設備にて焼却した後、埋め立て処理する。
少量の場合は、不燃性産業廃棄物として廃棄処理する。
焼却する場合は、アフターバーナー及びスクラバー(アルカリ洗浄液)等の排気設備を備えた焼却設備にて焼却する。

汚染容器および包装　廃棄物の処理及び清掃に関する法律、同施行令3条に準拠する。

木や紙類は一般廃棄物として処理できるが、各市町村の指導に従う。
プラスチック類は産業廃棄物として溶融又は焼却の後、埋め立て処理する。

14. 輸送上の注意

国際規制

海上規制情報	該当しない
UN No.	該当しない
航空規制情報	該当しない
UN No.	該当しない

国内規制

海上規制情報	該当しない
国連番号	該当しない
航空規制情報	該当しない
国連番号	該当しない

15. 適用法令

化審法	第2条第6項 第3種監視化学物質 告示番号第176号
化学物質管理促進法	第2条第2項 施行令第1条別表第1 第1種指定化学物質 政令番号第259号（平成21年10月1日より該当） 第2条第2項施行令第1条別表第1 第1種指定化学物質 政令番号第115号(平成21年10月1日より指定除外）
労働安全衛生法	第57条の2 施行令第18条の2別表第9 名称等を通知すべき危険物及び有害物（カーボンブラック、酸化亜鉛、テトラエチルチウラムジスルフィド）
船舶安全法	危規則第3条 危険物告示別表第1 有害性物質
航空法	施行規則第194条 危険物告示別表第1 その他の有害物質
海洋汚染防止法	施行規則第30条の2の3 危険物告示別表第1 海洋汚染物質
外国為替及び外国貿易法	輸出貿易管理令別表第1の16の項(キャッチオール規制)
消防法	指定可燃物、合成樹脂類（法第9条の4、危険物令第Ｉ条の12・別表第4）

特定有害廃棄物輸出入規制法(バーゼル法)
廃棄物の有害成分・法第2条第1項第1号イに規定するもの（平10三省告示1号）

16. その他の情報

特記事項	危険、有害性の評価は必ずしも十分ではないので取り扱いには十分注意してください。
改訂理由	GHS対応フォーマットへの改訂。 誤記訂正。

参考文献

国際化学物質安全性カード(ICSC)日本語版 (2002) (NIHS)
American Conference of Governmental Industrial Hygienists documentation, 7th, (2001) (ACGIH)
National Toxicology Program Technical Report Series No.166 (1979) (NTP)
Occupational Toxicants Critical Data Evaluation for MAK Values and Classification of Carcinogens (DFGOT), Vol.5 (1993) (DFG)
International Uniform Chemical Information Database (IUCLID) (2000) (ECB)
Hazardous Substances Data Bank (HSDB) (2006)
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances (RTECS) (2007) (NIOSH)
A.R.Nutt, "Toxic Hazards of Rubber Chemicals", p.91 (1984)
LOLI Database (2007)
Aquatic Toxicity Information Retrieval (AQUIRE) (2003)
Code of Federal Regulations Title 21-Food and Drugs, Chapter 1-Food and Drug Administration (Revised as of April 1 2009)
塩ビ食品衛生協議会, 技術参考資料 第228号, p.128 (2006)
(財)化学物質評価研究機構:化学物質ハザードデータ集2001-25 (2002)
I. Senneke et al., Allergie and Asthma, Band 12, Heff 2/3 (1966):
(社)日本ゴム協会 ゴム工業技術員会 衛生特別委員会, 技術資料 第13号, p.69 (1974)
A.R.Nutt, "Toxic Hazards of Rubber Chemicals", p.81 (1984)
鹿庭正昭, 製品と安全, No.34 (12月号), 2～23 (1989)(製品安全協会)
International Uniform Chemical Information Datebase (IUCLID) (1995)
厚生省試験報告;化学物質毒性試験報告5 (1997)(化学物質点検推進連絡協議会)
環境省;化学物質の環境リスク評価 第1巻 (2002)
通産省公報, 平成元年12月28日 (1989)
製品安全データシート　日本ゼオン㈱
製品安全データシート　大内新興化学工業㈱

インターネットホームページ

経済産業省　:　http://www.meti.go.jp/
環境省　:　http://www.env.go.jp/
製品評価技術基盤機構・化学物質安全管理センター　:
http://www.safe.nite.go.jp/

ご注意

＊本記載内容は、現時点で当社が入手した資料、情報、データに基づいて作成しておりますので、新しい知見により改訂される事が有ります。記載内容は情報提供であって、保証するものではありません。
＊注意事項は通常の取扱いを対象としたものですので、特別な取扱いに際してはその用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご使用下さい。
＊本製品は一般工業用途向けに開発・製造されたものです。食品・医療その他特殊な用途に御使用の場合は、貴社にてその用途での安全性を御確認の上、御使用下さる様にお願い致します。